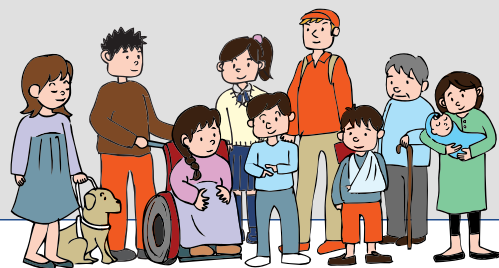


いざというときに頼りになるのは地域のちからです

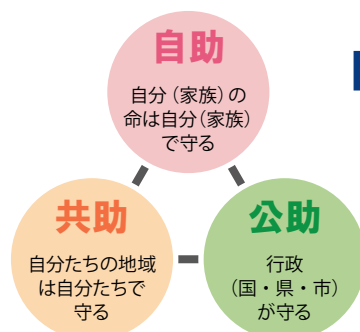


自分の命は、自分で守る

- ▶ 災害を“じぶんど”と思い、いざというときの対応を考えておきましょう。
- ▶ 「自分は大丈夫」と思いこんだり、誰かに頼りきりにならず、主体的に災害に備えましょう。
- ▶ 自分の命を守ることが、家族や地域の命を守ることにつながります。

家族の命は、家族で守る

- ▶ 災害が起きる前に、家族内でいざというときの対応を確認し、日ごろから備えましょう。



自分たちの地域は、自分たちで守る

- ▶ 日ごろから、近所の人とあいさつを交わしたり、地域のイベントに参加することで、顔の見える関係をつくるよう心掛けましょう。
- ▶ いざという時には、声をかけあってみんなで避難しましょう。
- ▶ からだの不自由な方や外国人など、あなたの助けを必要としている人がいます。安否確認や避難誘導・避難支援など、みんなで協力しましょう。

みんなで決めて、みんなで避難

避難を呼びかける情報があったとしても、個人では避難をためらってしまいがちです。地域で逃げる仕組みを考えておくことで、避難の決断がしやすくなります。

日頃から...

避難先や
避難のきっかけを
みんなで決めておく



1人では
避難できない方を
みんなで把握する

みんなで手を取り合い 助け合うことが大切です

隣近所の人や地域の人と、声をかけあえる関係づくりのためにも町内会等の活動に積極的に参加しましょう。



その時がきたら...

みんなで
逃げよう!



例えば...
声をかけあって
みんなで早めの避難

地域での避難訓練に参加して、確認しましょう。

ひとりで避難ができない方のために

お年寄りや、体の不自由な人などの避難には周りの協力が欠かせません。日頃からコミュニケーションをはかり、「いざ」というときには、できるかぎりその人の身になって避難を支援しましょう。

高齢者の方には...

- ▶ あらかじめ災害時の支援者を決めておきましょう。
- ▶ できるかぎり複数で支援をしましょう。



目の不自由な方には...

- ▶ まず「お手伝いしましょうか」と声をかけましょう。
- ▶ 誘導するときは、腕を貸してまわりの状況を伝えながら、ゆっくりと歩きましょう。



病気やけがをしている方には...

- ▶ 程度に応じて、声をかける、肩を貸す、手を添える等の援助をしましょう。



耳の不自由な方には...

- ▶ 口頭で伝わりにくいときは、筆談で、状況に応じて手のひらに書きましょう。
- ▶ 避難所でも伝達事項等は掲示板で伝えましょう。



車いすを利用している方には...

- ▶ 必ず誰かが付き添いましょう。
- ▶ 段差があるところなどでは本人と話し合い、ゆっくりとした対応をしましょう。



外国の方には...

- ▶ 孤立させないように、日本語でいいので声をかけましょう。
- ▶ 通じない場合は、身ぶり手ぶりで対応しましょう。
- ▶ 道順は手で示しましょう。



ペットの災害対策

- 市内**全て**の指定避難所で、ペットを連れて避難することができます。(各指定避難所で、ペットの飼育スペースを設けるなどの対応をとります。)
- 地域の避難訓練にペットと参加し、円滑な同行避難ができるようにしておきましょう。



ペットと避難するための準備

ペット用の避難用品などの準備をしましょう。

避難先でペットの飼育に必要なものは、**飼い主が用意することが原則**です。

避難時のペット用品の例

- ▶ エサ・水 (7日分以上)
- ▶ 食器
- ▶ 薬
- ▶ ペットケージ
- ▶ リード、トイレ用品など



鑑札、迷子札及びマイクロチップの装着

避難時にペットと離れても、保護された際に飼い主の元に戻るよう、迷子札や、マイクロチップ、犬の場合は鑑札を装着しておきましょう。

しつけと健康管理

日頃からしつけが大切です。無駄吠えをさせないようにしたり、普段からペットゲージ・リードに慣れさせておきましょう。

また、避難所では免疫が下がったり、他の動物との接触が多くなるため、各種ワクチンなどの接種などを行い、ペットの健康と衛生状態を保ちましょう。



ペットの飼育・動物愛護

ペットの飼育やペットのための災害対策について市ホームページに掲載しています。



問合せ先：環境政策課 (TEL：025-520-5690)